



通常例会 **ホテル・ブエナビスタ**
司会 **百瀬敏男会場監督委員**
点鐘 12:30 **小林正樹会長**

《ビジター》 岡崎東ロータリークラブ

稲垣寿会長
足立汎和姉妹クラブ交流委員長
市川幾雄創立50周年実行委員長
畔柳秀幸君 安井健次君 杉田広喜君
加藤和志君 清水幹良君

ロータリーソング「我らの生業」 斉唱

会長挨拶 **小林会長**



本日は岡崎東ロータリークラブの稲垣寿会長、足立汎和姉妹クラブ交流委員長、市川幾雄創立50周年実行委員長他、5名の皆様をお迎えし例会が開かれますこと大変嬉しく思います。

そして岡崎東ロータリークラブにおかれましては、クラブ創立50周年、誠におめでとうございます。姉妹クラブではありますが、私どもとは10才年齢の離れた兄貴分であります。これからも共に地域の発展に奉仕し、クラブの親睦を深めながら末永いお付き合いをお願い申し上げます。

来年2023年4月20日は、当クラブからも大勢で岡崎の地を訪問させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

さて前回例会では「青春って凄く密」という仙台育英高校野球部須江監督の言葉が、心に響いたというお話をさせていただきましたが、今度はたまたまテレビを見ていて、「心に響く」というより「心を打たれる」お話がありました。

たまたまテレビを見ていてと言いましたのは、その方が「職業奉仕に取り組んだ」という言葉が使われたので、何だろうと思い注目したわけです。その方はやはりロータリアンでありまして、神戸東ロータリークラブの関本剛さんでした。

関本さんは緩和ケア専門のクリニック院長でがん患者約1,000人を看取り、自らもがんのため今年4月に45歳で亡くなりました。私がテレビで目にしましたのは、生前に収録し、自身の葬儀で上映した「別れのあいさつ」の動画でした。

この動画はご遺族の了承を得て YouTube の神戸新聞チャンネルに掲載されています。

末期のがん患者や動画で励まされたという医療従事者のコメントなどが多く寄せられており、関本さんのメッセージは、死は誰にも等しくいつか訪れるものであり、必要以上に恐れたり、悲しんだりする必要はないと気づかせてくれるとしています。

少し湿っぽいお話になりましたが、平均寿命も大きく伸び、身近な人が亡くなることがまれになった現在、自分の最後から目をそらさない強さは、これからさらに必要になるのでしょうか。

おわりになりますが、今月は「基本的教育と識字率



